

平成 26 年 2 月 20 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 道下 文男



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。
会派 創風会

記

1. 期 間 平成 26 年 2 月 5 日～2 月 7 日

2. 視察又は訪問先

(1) 大分県玖珠郡九重町 エルランチョグランデ

内容 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

(2) 熊本県阿蘇市 阿蘇市役所

内容 地域ブランド戦略について、「然」の取組について

(3) 福岡県宗像市 道の駅 むなかた

内容 施設見学等

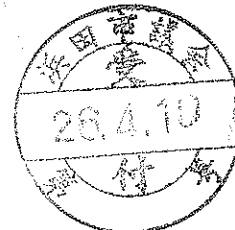
3. 調査経費 31,221 円

4. 各視察先の調査内容

【九重町 エルランチョ グランデ】取締役 瀬戸年美 氏

〈1〉視察に至った経緯

金城町の乗馬施設、金城ウェスタンライディングパークが、新たな指定管理者の元、リニューアルされたことに伴い、この施設が浜田市の新たな集客施設として、生まれ変わり、地域が活性化することを願い、先進事例のウェスタン乗馬牧場エルランチョグランデの取組みを視察した。



〈2〉 調査項目

- ① 「ウエスタン乗馬牧場エルランチョグランデ」大分県玖珠郡九重町田野
1726・320 の施設研修
- ② 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

視察当日は、大雪で周辺施設も観光客が居ない状況であり、そのような中、瀬戸代表を含め数人のスタッフによる施設の研修を行った。

簡素では有るが、宿泊施設を併設した学習施設として整備され、建物の配置等創意工夫が見られた。

オープン当初、周辺の食事をする所は4軒しか無く、レストランを併設し顧客ニーズに対応していたが、観光客も増え食事処が増え出したので、乗馬施設本来の業務に専念、周辺のホテルへ顧客を紹介し、ウィンウィンの関係作りで地域と共に発展をし、冬場の閑散期は最低限のランニングコストのみで、施設やホテルもサービスを提供することで、地域と共同体の意識が醸成されたとのこと。

また、牧場体験で修学旅行等も受け入れ、ホースセラピーを取入れて、障がいのある方の様々なニーズにも対応しているとのことであった。

〈3〉 所感（まとめ）

オーナーの瀬戸代表に施設内を案内して頂き、実際に厩舎内の馬を見ながら乗馬クラブ経営について説明を受けたが、瀬戸代表は、文字通り「馬を知り尽くした人物である」と感じた。

また、乗馬クラブを経営する中で、近隣のホテルや住民とも連携を図り、地域全体で知恵を出して取組まれているとのことであり、長年にわたり乗馬クラブ経営に携わって来られた賜物であるとも感じた。



雪のエルランチョグランデ



瀬戸代表の講演

【阿蘇市 阿蘇市役所】阿蘇市議会議員 阿南誠蔵 氏

経済部 観光まちづくり課 課長 吉良玲二 氏

クリップ株式会社 代表取締役 曾谷哲朗 氏

〈1〉視察に至った経緯

久保田市長が元気な浜田づくりを掲げ、最右翼に産業振興に取り組むとのこと。また、浜田の宝探しもするとのこと、参考になる熊本阿蘇市の取り組み事例を、視察した。

昨年10月より始まった『然』の取り組みは、マスコミにも取上げられ、全国から注目されることとなり、阿蘇市役所を訪問し、これまでの取り組みを伺った。

〈2〉調査項目

① 地域ブランド戦略について

② 『然』の取組について

阿蘇市は阿蘇山をかかえ、昔から観光地として多くの観光客が押し寄せていたが、近年は旅行の多様化により、団体から個人へとシフトし入込客は100万人に落ち込んだ。

そこで、阿蘇市観光まちづくり課が音頭を取り、クリップ株式会社の曾谷氏に阿蘇市の活性化と地域おこしを依頼、ものと人に焦点を当て、ストーリーを作り、あるがまま＝然、を立ち上げ、人との出会い、ものとの出会い、それを風景に織り込み阿蘇市のブランドとして商品にした。

今では、全国から『あるがまま』の然を求め人が来ている。

〈3〉所感（まとめ）

曾谷氏は、昨年10月からの取り組みで、ストーリー作り、商品作り、受け入れ態勢の構築と、一気に注目を浴び、見事に阿蘇市の観光客復活の原動力となった。

また『宝の山を探し、原作を作れ！産業が先、そして観光へ・・・スピード感を持って、チャンスは最大限に』と熱く語り、浜田の宝探しとブランド戦略へのヒントになると感じた。



【福岡県宗像市】株式会社まちづくり宗像 常務取締役 藤岡末英 氏

〈1〉視察に至った経緯

『道の駅むなかた』は平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が対等合併し新市まちづくり計画の中から、生まれた。中身は、宗像市の商工会、観光協会、農業協同組合、二つの漁業協同組合（宗像、鐘崎）で平成19年10月（株）まちづくり宗像を設立し、平成20年に福岡県内10番目の道の駅としてオープンしたものである。

オープン当初から、予想を上回る来客数と売上で、今現在、毎年右肩上がりとなっている。

浜田市において、同様の施設、道の駅夕日パーク浜田と、しまねお魚センターが有るが、近年は客数と売上の減少が続き、厳しい経営状況にある。そこで、道の駅むなかたの経営のノウハウと商品構成等を視察し、浜田と地理的に似通った海山の産物が豊富な、宗像市の道の駅むなかたから、学ぶべきものが有ると考え、この視察を行った。

〈2〉調査項目

① 「道の駅むなかた」の施設見学

② ㈱まちづくり宗像の取組

現地説明者 ㈱まちづくり宗像 常務取締役

駅長 藤岡 末英 氏

〒811-3502 福岡県宗像市江口 1172 番地

TEL0940-62-2715 fax0940-62-3874

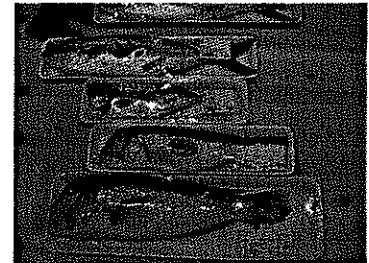
① 施設見学



館内〈売場とレジ〉



生産者の写真



鮮度第一の魚〈釣り〉

② 事業取り組みの状況

- 基本的に商品は、市内の生産者又は市内で加工された物に限る。
- 生産者と直接契約、会社としては仕入れ無し、委託料12%〈最大16%〉が収入源。

- 生産者が直接持込んだ、釣り物の魚と朝採れの野菜、その加工品の販売。
- 商品はその日で完売(POSで売上状況を把握し生産者にメールで通知)、売れ残りは生産者がその日に持帰る。
- 支払いは月末締め翌月 10 日払い
- 毎月各種の研修会を生産者向けに開催、品質の向上と販促に研鑽してい

③ 施設の運営状況

- 営業時間：10月～5月（9時～17時）6月～9月（8時半～17時）
- 休館日：毎月第4月曜日
- 売上：平成20年12億8千万円、平成24年16億4千万円
- 来場者数：平成20年139万人、平成24年163万人
- 客数：平成20年63万人、平成24年75万人
- 客単価：平均2300円（他所より1000円高い）
- 購買層：50代以上が半分を占める
- 地域性：市街88%（福岡23%北九州35%筑豊20%その他22%）市内12%
- 部門別売上：水産物37.2%・農産物32.4%・加工品28.1%・他工芸品
- 宗像市に指定管理料として1100万円/年、収益の30%を寄付(平成24年度1000万円)株主に10万円/年の商品券
- 現在利益剰余金は2億円積立

〈3〉所感（まとめ）

とにかく安い！そして活きが良い！これが全店舗の4割近くを占めるお魚屋さんの第一印象。もう一つ、魚屋さんを筆頭にその他農産物や加工品を売る売り子さんのやる気が違う！そのような印象をいの一番に受けた。

そして、駅長の藤岡さんの話にあったように、店舗のテナント料は委託料の12%（ショーケース使用は+2%）のみという安さから消費者価格も格安に抑えられており、人気のほどが理解できる。又、市場も福岡市、北九州市を控え、極めて有利な位置にあることも売り上げ増加に一役買っている。

以上のことを踏まえ、組織の内容や営業スタンスについて、当浜田市の類似施設に是非とも取り入れるべきであると痛切に感じた次第である。